

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300051		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム まちぐるみ		
所在地	岩手県大船渡市盛町字町3-1		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成25年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390300051-006&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390300051-006&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成24年10月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所が所在する地は、盛町商店街の中心地に立地しており、入居者の食材料等の調達等は出来るだけ商店街で買い物をし地域交流の一環として捉え、加えて商店街の活性化の一助にもなっていると認識している。昨年の震災時に於いては地域住民の避難場所にと交流スペースなどを提供し、有事の際はいつでもどうぞと声をかけている。また事業所名のとおり認知症の入居者を「まちぐるみ」で支えていこうという観点から、パブリックスペース等を活用した地域交流の機会を数多く設けている。個々の介護計画はコンピューターシステム「ちょうじゅ」を導入し、科学的なケアの実践に努め、入居者の生活歴等を勘案し全人的なケアの提供に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、盛町の中心商店街、いわゆるまちなかに立地しており、同一法人が運営する介護老人福祉施設が併設しており、一体となって複合型福祉施設を形成しており、震災時に築かれた支援、協力関係が強い絆となって現在も続き、地域との交流が盛んに行われている。  
認知症に対する職員の意識が高く、質の高いサービスの提供が行われている。「まちぐるみ」の名のように、利用者を中心に家族、職員、となり近所、商店街、地域全体で助け合う拠点として位置づけられている。法人と職員の信頼関係も強く、被災した職員にも理解ある対応をして感謝されている。居室スペースが広く取られ、家族が利用者と寝起きすることができる等モデル的なホームであり、今後が楽しい事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人「すべては愛から始まる」当事業所は「まちぐるみ福祉の拠点として」を方針と目標に掲げ実践している。	法人の理念を基に「まちぐるみ」の目標を定めている。入口に掲示し、毎朝申し送り時には職員が唱和して共有をしている。声かけを大切に、利用者に接することを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	災害時の避難場所にと声をかけている。また、地域の行事(夏祭り・七夕・お天王様子供相撲大会)には駐車場を提供している。日常の買い物や散歩は近所のスーパー、個人商店を普段から利用している。	地域の福祉拠点となっており、震災を機に地域の方が「まちぐるみ」を訪問されたり、駐車場を利用したイベントを開催したりと、交流が活発に行われている。神社奉納子供相撲大会を駐車場で行い、親子300人ほどが集まり盛況であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回発行している「まちぐるみ通信」にて、認知症についての紙面を作成し、認知症の理解や支援の方法を促している。また、運営推進委員会で地域からの要望を聴取している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況(行事、入退所の状況)を報告し、通信や日常生活の様子を写真などで回覧している。委員よりその時期の社会情勢に合った話題を提供していただく。地域からの要望とともに、こちらからの依頼なども検討している。	ホームの駐車場、屋内の交流スペースを地域の避難場所に提供して欲しい。市の移動図書館車を巡回して欲しい、行政からは、インフルエンザについて指導があったりと、要望や、助言が活発にでてくるようになってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催や、大船渡市内の事業所及び市町村担当者が集まる事業所連絡会への参加をし、当事業所の状況等を報告している。	推進会議に市の担当者が参加をして、指導、助言を頂いている。「まちぐるみ」を福祉避難所とすることが現在検討されている。利用者に「成年後見人制度」を受けている方があり、連絡を密に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことが基本であり、玄関、リビングからの出入りは自由に出来る。研修会では身体拘束実態調査結果や、当法人のマニュアルを確認・検討をしている。	ホームのすぐ前は交通量の多い道路のため、夜間(22:00~5:00)は施錠している。外部で研修を受けた後は、法人で報告をして勉強会をしている。「ちょっと待ってね」も状況を確認しながら、利用者の気持ちになって対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や介助時は身体状態の観察をし、何かあれば(発赤や掻き傷なども)記録している。内部研修を実施している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び日常生活自立支援事業等の内部研修を実施している。また、ご利用者様やご家族の方々にも周知して頂くよう、玄関前に資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約に加え、介護報酬改定等の際にも十分な説明を行い理解・納得を得ている。今年度の介護報酬改定についても新たに説明をした後に契約書の書き換えを実施した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委会議にて意見を聴取している。また、家族等が気軽に意見を述べる施設長への直送便を設置している。利用者からは毎月懇談会を実施し、意見等を聴取している。	玄関の投書箱はほとんど利用されていない。口頭で、バス時刻表の貼付、見えるところに時計を設置して欲しい等の要望があり、すぐに対応している。利用者とは毎月懇談会を持ち、何処へ行きたい、何を食べたい、どんな事をしたい等希望を聞いている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員会議を開催しその際に意見を聴取している。	通院介助、買い物等に「まちぐるみ」の公用車があれば便利(法人で購入対応)浴室の安全手すりが欲しい、特殊浴槽(蔵ハウスと共同利用)があれば利用が高まる等の活発な提案が出ている。法人は職員の意見を取り上げ改善に向けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。具体的には、業務の見直し等を随時行い、勤務時間内での労働に取り組んでいる。また、職員会議等では、職員が意見を積極的に発言できる雰囲気作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には積極的に参加をしている。また、個々の質の向上には、毎日のミーティング時に簡潔なカンファレンス等を行い、トレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、主に外部の研修会等に参加した際に、交流や活動の情報交換をしている。岩手県GH協議会に出席し、その際にも情報交換等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階で本人及び家族等から詳細に聞き取りを行い、また、担当ケアマネと連携し本人の安心確保に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも上記に同じ。入所後は状況により面会時や電話等で知らせ、家族と相談しながら対応策を検討することもある。(受診対応や、介護用品の購入など)			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後2週間は極め細かな状態観察を行い対応策を検討し、利用者に「その時」に一番必要な支援をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の生活をお手伝い・支援するという立場で接している。具体的には、共に調理をしたり、献立の相談をしたり、買い物に行った場合は一緒に旬のものを選んだりしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業者は4名の身元が遠方なので、2ヶ月に1度の広報誌の送付や日常生活を電話連絡等で行い、利用者の生活が理解できるように努力をしている。また、同室にて宿泊も可能で利用されている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の同級生、知人が訪ねてきたり、馴染みの店に出向いたりの交流を積極的に努めている。また、在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを促している。	知人、友人の来所は多い。買い物は昔からの商店へ出向いて行く。遠方の家族には電話による支援をしている。最近は少なくなっているが、食材買出しは近くの商店街を利用し、店の人との会話を楽しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所全体を一大家族と捉え、毎日の食事や活動等に一同が会える事ができるよう雰囲気作りを努めている。その結果か現在居室にて孤立している方はいない。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後退所者は4名いる。退所時移動先の事業所に本人のこれまでの様子を情報提供し、移動先での環境への不適應がないように心掛け、連携を密に図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者から直接、事業所での生活に対する希望等を伺っている。また、利用者懇談会にて個別に聞き取り等を行い、意向の把握に努めている。	利用者担当は決めてあるが、主としてアルバム作成、ケース記録記入で、関わりはすべての職員でしている。介護システム「ちょうじゅ」を使用し、24時間シートを作成して、生活歴、好きな食べ物等、わからないことは家族からの聞き取りで把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査や面会時の会話などから、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。また、24時間シートを作成し個々の1日の過ごし方を職員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、担当者会議を開催し介護計画及びモニタリングを行っている。その担当者会議の際には、家族等にも参加を促している。または面会時などに意見を聴取している。	本人、家族、職員をチームとしてケアプラン作成をしている。必要に応じて医師の意見が入ることもある。利用者が居室に戻った13:00～14:00の間が担当者会議の時間に当てられている。家族とは頻りに意見を聴く機会を持っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケース記録等を共有し、介護計画を再立案する際に見直しを行っている。特に計画の課題の他に出現した様子等は随時情報共有を行い、即時に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業の利用者は他事業所の利用はないが、事業所内で生まれたニーズには柔軟に対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時地域の方々が参加できる行事等を立案し、地域と共に暮らしを楽しむことができるよう支援している。色々な展示会や催し物の見学、図書館、外食などに出向いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設事業所には嘱託医がおり、特に希望がなければ主治医として診てもらっている。入居前からの通院先にも必要時には受診している。また、専門医の受診は適宜判断し、適切な医療を受けられるように支援している。	ホーム入居に伴ってかかりつけ医を変更し、現在は、全員がホームの協力医の診察を受けている。 通院はホームで支援している。初診、診察結果については、家族に報告、又は同行で対応している。通院の帰りに、外食、買い物をする利用者もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業では看護師は配置していないが、併設している事業所の看護師に随時相談等を行い、適切な受診ができるよう支援をしている。また、前述した嘱託医との連携にも努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	過去に入院者は3名いて状態により退院後の行先を家族と相談し合ったり、安心して治療に専念していただく。病院へは何度も足を運び、担当看護師に病状の説明を受けた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、入所時に確認をしている。また、事業内ではターミナルケアのマニュアルを作成しており、職員間で方針を共有している。	利用開始時に重度化に関して説明、家族の理解を頂いている。理解したうえで、最後までホームをお願いしたいとの家族が多い。法人の特養や、他の施設を利用できることを説明し、家族の安心につなげている。法人のマニュアルを使って、研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についても、マニュアルを作成している。また、施設内研修では心肺蘇生等を行い、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同で消防訓練を毎月実施し、職員非常連絡網も作成している。また、地域との協力体制は現在構築に努めている。	毎月1回、隣接する介護老人福祉施設「蔵ハウス」と合同で「火災、地震、津波」を想定した避難訓練をしている。1回は夜間(19:00より)に行っている。居室にはヘルメット、名入りの反射タスキが常備されてある。職員の役割分担、非常連絡網も作成している。	市の消防署からは2分で消防車が到着できると確認している。地域は高齢化が進み、緊急時には自分の安全確保で、すぐに駆けつけることは困難であるとの声が多い。検討を重ねて地域との協力体制について検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業では常に職員にすべてのケアの場面で「利用者の尊厳を損ねないように」との意識付けに努めている。接遇についての研修も実施している	年2回法人全体でプライバシー等の研修を行っている。呼び方は名前に「さん」をつけている。妄想状態が強いときには「おじいちゃん」と呼びかたを変えて効果を上げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言葉かけの中で実践している。すべての場面で常に利用者自身が選択できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者懇談会にて希望を伺い、それに沿った支援をしている。本人の希望を可能な限り受け入れ、外出や買い物等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、美容院や床屋、化粧品等の買い物ができる体制作りを努めている。近所にある衣料店にも希望時は一緒に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年度ごとに嗜好品の調査を行っている。また、準備や食事等は利用者と共に実践し、職員も食事時間には介助を要する方の席になるが一緒に摂るように努めている。	毎年嗜好調査をして、好きな食べ物を把握している。配膳、下膳が困難になり、座ってテーブル拭き、盛り付け、刻みが出来る。要介助者が3人いるため職員は同時に食事が出来ない状態である。会話を楽しみ、笑いながら、おいしいと食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	例えば食事に関しては1日30品目以上の食材を摂取できるように心がけている。また、水分量等については、当事業所で取り入れているコンピュータシステムで管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践している。また、随時歯科受診等を行い、その際には利用者個人毎の口腔ケアの指導も頂いている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	開設当初から利用者の排泄パターンを把握した排泄ケアを実践しており、トイレ誘導は随時対応をしている。	誘導、介助が必要な利用者が2人いる。見守りに対応できる利用者が多い。排泄後、清拭が必要な方もある。居室にはトイレが完備されてあるため、自立の維持につながっており、介護用品は軽度の利用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材には毎食野菜を取り入れ、水分量・運動・習慣等を考慮しながら便秘予防に努めている。また、主治医と連携をし、時には下剤等の処方もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴は決めているが、他に希望があれば対応している。	日曜日を除き毎日入浴可能であるが、週2回で対応している。夏場はシャワー浴を追加している。14:00～16:00の時間帯に3～5人を1人の職員で対応している。拒否、異性介助のトラブルはない。 入浴しながら利用者と会話がはずむことが多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地域がらか入眠時間が早い方もおり、夕食時間を早目に対応している利用者もいる。また、日中行事等があった際には、疲労等も考慮し気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ひとりの内服表を作成し、薬剤師より提出された副作用及び用法や用量を理解と確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努め、趣味活動の援助、飲酒の対応、外出などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては、本人の希望等を考慮し、バスハイク、外食、買い物などに出掛けている。家族との外出も連携をとりながら実施出来るように努めている。	徐々に介護度が高くなり、散歩の回数が減り、洗濯物干し、買い物同行、花の水遣りで外気に当たっている。利用者の多くが外食(すし、カツ丼)が好きで出掛ける。バスハイクで遠野、住田へ出掛けて花を觀賞している。家族にも案内をしているが、参加には至っていない。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は4名おり、買い物や孫への小遣いなどに使っている。本人の満足感や自立に大切な役割をしている事を職員は理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した場合は直接電話を掛けているし、手紙は本人に手渡し、その返事は本人に電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は、常に季節感をかもし出すような装飾をしている。また、家庭的な雰囲気作りに努めている。	蔵を連想させる外観と、住宅の雰囲気がバランスよく、天井を低めに、一人になれる場所があり、みんなでテレビが見れるゆったりとしたソファがあったりと、利用者への配慮がされている。文化祭に向けて「まちぐるみ」のみんなでちぎり絵、四季の花タペストリーを製作中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室コーナーやリビング以外にも気の合った利用者同士で過ごせる居場所を確保している。また、併設事業所の地域交流スペースの活用もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを本人及び家族等にも促している。位牌を持参された方も3名いる。	居室にはベット、トイレ、洗面台が設備されており、使い慣れた桐タンス、テーブル、椅子、写真、位牌等、持ち込みは多い。昔が偲ばれる個性的な部屋作りがされている。床暖房、換気扇(この夏は除湿で対応)があり、照明は柔らかくて寛げる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境については、建設時よりバリアフリーや尊厳の保持を念頭に各居室にトイレを設置している。また、ユニット内だけではなく、地域交流が出来るスペースも確保している。		